協調會と河原田理事

河原田理事

河原田稼吉氏が、林前内閣の内務大臣に就任せられ、本會常務理事を辭せられて四ヶ月になる。現在理事として本會の事業に援助を與へられて居るが、政務多忙の爲め、親しくお目にかゝる機會が仲々無かつた。今林内閣は總辭職を爲し組閣の大命は近衞公に降下したが、氏の身邊はその爲め、一層の繁忙を加へ、本誌の刊行には御相談を爲す機會は終になかつた。それで、本誌に御意見を頂くことも出來なかつたのは、詢に殘念である。本會御在任當時の氏は、常に本會の根本を培ふことに考を及ぼされた。當時内務省内にあつた産業福利協會を合併して、産業福利運動に乘り出すことにしたのは、特に顯著な氏の業績である。本誌の刊行も、氏御在任中からの計畫が、具體化したものである。

傳へられる所によると、近衞内閣には入閣されぬ、とのことである。吾々にとつては寧ろ望んでもない所、今後閑地につかれたら、再び吾々の事業に大きな援助を與へられ度い。

東京勞務管理研究會

本年度より組織を改め會員を擴大した勞務管理研究會は、その第一囘總會を去る四月十三日協調會講堂に開催した。當日は來賓者八十有餘名あり頗る盛況を呈した。

先づ町田常務理事より新任の挨拶あり、次いで長谷川參事より「物價騰貴と賃銀對策」につき詳細に説明、一同頗る熱心に聽講、報告終了後は頻繁なる質疑應答が行はれた、猶當日左の如く新幹事の選任があつた。

秋山斧助氏(全産聯)、會津秀雄氏(大東紡織)、赤塚勝次氏(富士紡績)、市瀬龍吉氏(東京電機)、宇野信三氏(能率研究家)、川村篇二氏(大島製鋼所)、齋藤義雄氏(日本電氣)、田坂政養氏(自動車工業)、田島圭一氏(淺野セメント)、田原冬藏氏(北海道炭礦汽船)、長谷孝之氏(協調會)、野口濱次郎(新潟鐵工所)、早川勝氏(三菱鑛業)、廣岡見二氏(日清紡績)、三井寛彌氏(芝浦製作所)、渡邊六郎氏(日本製鐵)

五月例會

一、勞務管理研究會五月例會は五月十三日午後五時より協調會一階談話室に於てダイヤモンド社社長石山賢吉氏の「經濟日本の進むべき道」と題し我國産業の將來に關する説明を拜聽後同氏を中心とし懇談致し午後八時半散會した。出席者　七十五名

二、勞務管理研究會の賃銀對策分科會第一囘會合は五月二十二日午後五時より協調會社會政策學院に於て擧行の豫定である。

出席豫定者(賃銀對策分科會參加申込者)五十五名

一、勞務者懇談會五月例會は昭和十二年五月十五日午後六時より本會社會政策學院教室にて開催、土岐子爵の講演「最近ドイツの國民運動と勞務者」ありたる後勞働奉仕團等の映寫あり午後十時閉會せり。出席者數　三十四名

大阪第三十八回勞務管理研究會

纖維工業分科會に於ては、四月十三日朝日ビルに於て、大日本紡績佐田健一氏の常番幹事の下に、女工の募集難とその對策に就き例會を催し三十名の出席があつた。

機械金屬分科會に於ては四月十四日同會場に於て神戸川崎造船所砂野仁氏常番幹事の下に、熟練工の拂底とその對策に就き例會を催し、三十五名の出席があつた。兩會とも時節柄極めて重要性ある問題で眞劍なる討議が行はれた。

福岡産業福利部委員會

町田、長岡兩常務理事の來福を機として九州地方第三囘産業福利部委員會を五月十一日正午福岡市昭和生命館に於て開催し、兩氏を中心に最近の勞働問題に就き懇談した。同席に於て瀧島囑託より物價騰貴と賃銀値上に關し約一時間の報告があり盛會裡に午後三時解散。出席者七十名。

尙門司方面の同會員は五月十五日午後六時より門司市みかさに於て常務理事歡迎會を開催し、約三十名出席者あり、協調會に對する忌憚なき希望が述べられた。

大阪・名古屋合同勞務管理研究會

博覽會開催中是非とも大阪側を一度招待したいと云ふ名古屋産業福利研究會の好意に依つて、去る五月十日名古屋市大江町南陽館に於て合同研究會が開催され、大阪側より十一名、名古屋側より三十二名の出席者があつた。折しも協調會長谷參事が來名の時であつたので、同氏に物價騰貴と賃銀値上の報告を依頼し、食後勞務管理に關する有益なる懇談が交された。當日の見學場所は大隈鐵工所、日本碍子株式會社及汎太平洋博覽會である。

名古屋勞務管理研究會

長岡調査部長及稻葉囑託は、全國經濟調査機關聯合會に出席の後、四月二十四日午後一時名古屋商工會議所に於て開催せられたる勞務管理研究會例會に於て講演した。長岡部長は最近の勞働問題を中心に、稻葉囑託は獨逸勞働奉仕制度を中心に報告し、極めて充實した成果を擧げた。出席者約三十名、五時散會。

門司方面産業福利部委員會(福岡)

門司方面に於ける産業福利部委員會は五月二十五日午後六時より門司俱樂部に於て開催され、坂井囑託の右翼運動と支那事情に就て詳細なる報告を受けた。參會者二十名。

社會政策學院第三十八回講習概況

本學院第三十八回講習は、去る四月十二日開講式を擧行、即日與澤學院長の「勞働問題概論」の講義を開始し、全期十三週中既に第七週の講義を終了し、目下主として實際的な科目に就て講義を進めつゝあり。

入學者八十六名、主として官公署會社工場等勤務の勞務關係職員並に社會事業關係職員にして、内半數以上は專門學校卒業者である。

名古屋中小工業座談會

美濃口内閣調査局專門委員來名を機として、協調會名古屋出張所及名古屋工業研究會の合同主催に依つて四月九日午後五時半、名古屋商工會議所に於て、中小工業を語るの會を設けた。參加者約五十名。非常な盛會であつた。

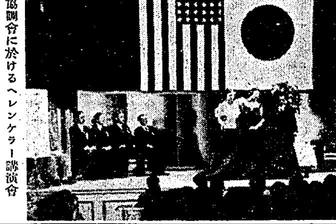
關西に於ける工場綠化講習會

坂本囑託は四月九日より四月十九日迄

佛に終るであらう。相互が銘々勝手な利己的利益のみを追求し別々の氣持で別々の道を歩いてゐる間は折角の勤勞も經營も共に其の眞價を發揮するに由なく死物になつて終ふであらう。勞資が日本の國柄の有難きこと、日本に生を享けた歡びを心から沁々味ふことが出來るときに感謝奉公の誠心も湧き、勞資一體の境地も自ら生まれることを信じてゐる。事業主は從業員がかゝる信念の下にその勤勞を樂しむことが出來る樣に率先垂範其の指導に當らねばならないと思ふ。

ヘレン・ケラー女史講演會

四月二十七日午後七時から協調會館に於て、工場勞働者を中心にヘレン・ケラー女史の講演會を開催した。雨天にも拘らず久方ぶりに會館は滿員の盛況を呈し、勞資約千名完全なる協調の實を擧げた。先づ主催者を代表して池田勤勞者教育中央會理事長の挨拶があつて、小室篤次氏のケラー女史の紹介、次にケラー女史の三十分に至る講演があり、最後に町田協調會常務理事の閉會の辭があつた。



協調會に於けるヘレンケラー講演會

京阪神地方に於て、神戸製鋼所及鐘紡淀川工場等約二十ヶ所に於て、工場綠化の實地講習會を開催し、多大の効果を收めた。

大阪興民懇話會茜會合同例會

京都帝大羽溪博士を招聘し、宗教と社會なる題目に四月十日大阪朝日ビルに例會を開催し、博士の熱辯に一同感激を受けた。出席者三十五名

名古屋工場衛生懇談會

愛知縣工場會、日本産業衛生協會東海支部、協調會産業福利部の共同主催の下に、五月十五日午後五時から名古屋商工會議所に於て、大西社會局技師、鯉沼名古屋醫大教授の兩氏を中心に職工の健康診斷、結核豫防、工場食等の項目に就き研究討議した。出席者約四十名。

京都體育講習會

四月三日より六日まで赤間囑託指導の下に、京都府綾部、峰山、京都市に於て體育講習會を開催し、毎日二百名餘の參會者あり非常な盛會であつた。又四月六日夜は大阪毎日新聞社大講堂に於て民謠體操の講習があり百名の出席者があつた。

榮養食時代來る

協調會囑託榮養士佐田あや女史は、佐伯博士(榮養研究所長)及大西博士(社會局技師)と共に、京都、大阪、兵庫の三府縣に榮養食實地指導に出かけたが、豫想外の聽講者に驚いてゐられる。安い食物で榮養價値の多いものであれば、工場に喜ばれるのは無理もないことである。

トーキー出張映寫(五月中)

一、五月六日
足立區小臺町
日本毛皮株式會社にて

二、五月一日
川崎市
富士電機製造株式會社
富士通信機製造株式會社

三、五月八日
栃木縣日光町
古河電氣株式會社日光精銅所

以上

フイルム貸與(五月中)

一、打てよ魂　三重縣小野田セメント藤原工場
一、打てよ魂　愛知縣工場會
先づ營養　〃
一、打てよ魂　新潟縣工場協會
安全戰線　〃
木工の災害豫防　〃
一、打てよ魂　宮崎縣工場協會
精は出しても血は出すな　〃
一、復活改訂版　新潟縣日本ソーダ二本木工場
安全戰線　〃
一、打てよ魂　長崎縣貝島炭礦株式會社
安全戰線　〃
一、十六ミリ安全戰線　農林省山林局

以上

日本國民體育研究會(五月分)

五月三日午後六時―八時　於協調會館
五月十一日　〃
五月二十一日　〃

右は主として民謠體操の研究練習なり。

全國工場協會便り

◇山口縣工場協會

(一) 工場修養會「映畫の夕」

五月十日　下松町笠戸ドック株式會社笠戸工場に開催、參會者六〇〇名

五月十七日　下關市彦島小學校に林兼商店鐵工所の修養會を開催參加者八〇〇名

(二) 支部總會

五月二十一日　宇部支部、總會に次で勤續從業員表彰式を擧行、滿一五年以上男八女二計一〇名、滿十年以上男六六、女一二計七八名表彰

五月二十六日　小野田支部　小野田小學校に第十一囘總會開催、第五師團參謀柴塚誠少佐の「工場防空に就て」と題する講演があつた。

◇福井縣工場協會

榮養講習會　本會産業福利部と共同主催の下に開催、講習會狀況は左の通りであつた。

		聽講者 工場側	聽講者 女學校生徒
五月十五日	大野郡大野町	二〇	八〇
十六日	坂井郡春江村	二〇	
十七日	福井市	五二	
十八日	大野郡勝山町	二〇	四〇
十九日	今立郡鯖江町	二一	

工場側聽講者は工場の食事擔當者及責任者のみであつた。本部よりは佐田あや囑託が出張して實地指導に當つた。

◇新潟縣工場協會

工場講演並活動寫眞映寫會　縣工場協會、同支部主催、五月十二日より同二十二日迄新潟市沼垂町、龜田町、小須戸町、五泉町、加茂町、三條市、燕町、長岡市、見附町と順次に講演及映寫會を開催、何れも盛會、映畫は「打てよ魂」「秘める危險」「木工の災害防止」であつた。

◇福島縣工場協會

總會　五月四日、福島市公會堂にて開催、昭和十一年度決算、昭和十二年度豫算を決定評議員を選擧して閉會、次で工場從業員の表彰式を行ひ、終つて本會常務理事湯生俊文氏の講演があつた。

京都府工業聯合會
京都府工場衛生會

(一) 榮養食講習會　本會産業福利部と共同主催(別項通り)

(二) ポスター配布　工場災害防止、衛生に關するポスター作製

(三) 關西民謠體操研究會京都支部　六月十日發會式擧行

(四) 結核に關するリーフレット發行

◇熊本縣工場協會

(一) 二級汽罐士講習會　五月十五日より十日間、天草郡本渡町に開催、聽講者二十四名

(二) 評議員會　六月二日縣廳に開催、十一年度決算を承認し十二年度豫算を決定、第十回安全週間擧行に就ての協議を行つた。

産業福利部事業豫定(六月及七月)

六月	開催日	開催地
安全委員講習會		東京、神奈川、大阪各三日間
産業衛生講習會	五日	東京市
勞務管理研究會	中旬	東京市本部
勞務者懇談會	下旬	東京市本部
安全講演會	自一日同末迄	山形市全國
女工教育擔任者講習會	七日―八日	鳥取市
常磐地方勞務懇談會	二十二日	福島縣下
安全講演會	二日	神戸市
體育講習會	七、八兩日	仙臺市
東北鑛山勞務協議會出講	十八日	仙臺市
七月		
職長講習會	二日宛	小樽、札幌兩市
北海道地方勞務懇談會	中旬	
北海道産業衛生總會出席		札幌
安全講演會	五日より九日迄	函館、札幌兩市
安全講演會	安全週間中	各地
安全週間	一日より七日迄	全國工場鑛山等
衛生講演會	日時未定	香川縣下
體育講習會	廿一日より六日間	長野縣下三ヶ所
勞務管理研究會	中旬	本部
勞務者懇談會	下旬	本部

新設された映畫班の活動

目下關西巡映中

産業福利部は、昭和十二年度の新事業として、映畫班を設け、本部作製の映畫「安全戰線」(伴奏器付)「打てよ魂」(トーキー)其他「絕對に釣る」(トーキー)等を携へ、全國工場鑛山に出張映寫することになつたが、早くも各方面からの要求引きも切らず、その最初の巡映として去る五月下旬から約四十五日に亘り福岡、京都、大阪、兵庫の各府縣下の各工場に出張映寫中である。

映寫料は一囘十五圓、外に出張技師の旅費及機械の運搬費を負擔願ふことになつて居るが、同一地域の工場が相談して五六ヶ所聯合して申込んで頂けば旅費其他一部を含めて一囘二十圓位の映寫料で濟むことになる。

協調會圖書館

五月中に於ける閲覽者は一五四名内協調會職員五七名、他は學生、敎授、會社員等である。